



令和6年  
3月

# 学校だより

NO.10 令和6年2月29日

さいたま市立美園北小学校

TEL 048(812)2277

<https://misonokita-e.saitama-city.ed.jp/>

## やろうとするのが大事

校長 佐藤 利春

### 私は聖徳太子ではない

私は毎日廊下をフラフラと歩きます。子どもたちによく聞かれるのですが「フラフラ歩くのがお仕事」と応えています。5時間目の授業当初フラフラとしていると、あるクラスで子どもが私を見つけ、結構な距離から、血相をかえて私を呼びます。何事かと言ってみると、教室後ろの扉あたりに子どもたちが集まっていっぺんに私に説明します。聖徳太子ではない私は、「落ち着け！」と指示をしながらか、やっとのことでキーワードを拾い出し事態を把握しました。

### 青天井

以前「先生たちからの挑戦状」と題したYouTubeをお見せしましたが、職員の長縄記録173回を一番最初に破ったのがこのクラスです。中央階段わきのデジタルサイネージにもビデオを紹介し、その後も、ますます練習に力が入っていたクラスです。この日の昼休みに自分たちの記録を更新したのだそうです。とっても興奮していました。もう一度、「落ち着いて座りなさい。お祝いの言葉をのべよう。」と声をかけ、黒板の前で、♪〇組いいな～新記録更新めでたいな～183回おめでとう お～！♪いつもの歌で祝いました。子どもたちも「お～っ！」とこぶしを挙げ嬉しそうでした。私は話を続けます。「YouTubeとかで『小学生 長縄』とか調べてみると、ものすごいのがでてくるんだよ。1分間で200回とか！」子どもたちは、「え～っ！！！」とびっくりします。本校で実施しているのは2分間というルールですので、子どもたちが驚くのもわかります。その様子や子どもたちの感想を含め、少し、話し合っていると、明らかに子どもたちの表情に、「遠く離れたものを語っている」「私たちとは別世界」というようなニュアンスを感じました。そこで、「さあて、私はみなさんに何を伝えたいのでしょうか？」と問うと、すぐに手を上げ何人かがこたえてくれました。他人が何を考えているかなんて言う質問に対し、よくこたえるなあと感心しつつ、「全部違います」「それでは、黒板にヒントを書きます。【青天井】“あおてんじょう”と読みます。担任の先生は今のやり取りを聞いていたから、担任の先生に何？って聞くのは無し。そのほかはどんな手を使ってもいいから調べたり、考えたりしてね。こんなことは2年生(このクラスは2年生です)の子たちには出さない問題です。答えが出せようが出せまいが、いつ出せようがかまいません。忘れてしまってもいいです。何だろう？ってみなさんが考えてくれたらおもしろいなあという、おじいさんの希望です。」と話して教室を去りました。【青天井】調べると、「相場、価格、費用等に上限が設けられていない状態を指す言葉」だそうです。かわいそうに、2年生の子たちが、私の意図するところにたどり着くことはあるのでしょうか？子どもたちは何かにつけて「むり～」といひます。口癖になってしまっている感があります。【青天井】経済用語的な扱いのようですが、「同じ小学生(きっと高学年だと思ふのですが)がやること。はじめから無理と限界を決めずチャレンジしようと、やってみようとする人であってほしい。」これが私の心です。このクラスの子たちは、大人が出した記録を越えようと燃え、越えました。そして、自らの記録を更新しました。すばらしいプロセスです。そのようなプロセスを経験した人には、「井の中の蛙にとどまっておほくない」「大海を見てほしい」さらに、「チャレンジしようと決意し、努力を積んだうえで、叶わないという経験、さらに、めげずにプランの練り直し・再チャレンジの行動を起こすような人になってほしい」という想いがあります。

### “やろうとするのが大事”キャンペーン

佐藤の中にある想いを、勝手にキャンペーンとして実践しています。本年度5月号学校だよりに載せた「突然ですが、ぼくから提案があります。」シャーペンを使わせてほしいという5年生児童のプレゼンに感激し、この想いが膨らみ始めました。この子の【やろうとした・想いを形にした・行動を起こした】を全校児童に紹介すると、じわじわと、しかも、次々と【やろうとする】子が出てきました。これもできる限り、様々な形で全校に広く紹介してきました。刺激の距離(佐藤造語)が近いほど、子どもたちは燃えます。「身近な友だちが・えっ！あの子が！」自分自身の中にあつた「才能・やる気・やりたい・わたしも・・・」というようなものが目覚め、行動を起こす子がたくさん出てきました。(写真:中央階段わきに掲示)私が把握しているだけでたくさんの子ですから、担任や他の職員が感じたり、保護者の皆様を感じたり、周りの友だちが感じたり、さらに、その子の内部で感じたり、多くの変化が出ているはずですよ。成功しようとか・大きな成果を得ようとか・バズらせようとか・・・夢描くことは大いに結構なことですよ。それ以上に、うまくいかなかったって、大した成果を得られなかったって、バズらなかつたって、まわりは、大人はミスは大いに認め、さらに、自分自身もミスすることを恐れず、いつもいつも、だれもかれもが、【やろうとするのが大事】と、どんどんチャレンジしていく美園北小であつたらいいなあ！と想います。



### その素地はいつ育つのか

2月26日放送のNHK クローズアップ現代で「スタートアップは社会を変えるか“革新的ビジネス”」を見ました。イノベーション、ベンチャーといったキーワードとともに、これらは、大人社会の経済用語なのではないでしょうか？さらに、その素地はいつ育っていくのでしょうか？私は、自我が芽生え、知識欲が豊かになり、人間性がぐんぐんと伸びる子ども時代、特に、小学校の時期にこそ、その芽生えがあり、礎となっていくのではないかと感じています。管理職試験論文冒頭に、「変化の激しい時代に対応するため・・・」というのを見かけます。“対応”しようとしている時点で追いつく気配はありません。本校の子どもたちを見ていると、変化を予測するとか、変化を起こすとか、そんな明るさを感じます。その人がもつよさ・個性は一人ひとり違います。そのよさ・個性が発動し、【ミスを恐れず、自由に発想し、どんどんやろうとしていく】可能性の塊が見せるそんな姿、すばらしいですよ。

子育てってたいへんなこともあるけど、魅力的なすばらしい仕事ですよ。未来創造に関わるのですから。毎年、4月初、職員向け私の話のタイトルは「私たち一人ひとりの人間性が、日本の未来を創造していく～その人の“よさ”にだけフォーカスするコミュニケーション」です。【日本の未来】を『こども』と読んでいます。保護者・地域の皆様のご理解お力添えをいただきながら、スタッフ一人ひとりが励み、子育てにとりこんでまいりました。校長として今、【未来創造】に関わっている感覚を感じることができていること、最高にしあわせな環境にいます。残り1か月となりました。どうぞよろしくお願ひします。今月号は「思う・思い」を【想う・想い】という表記にしてみました